

わ か ば

東京都立三田高等学校同窓会
社団法人 ワカバ会

東京都港区三田一四一四六
電話〇三―四五一―〇二二七
振替 東京八―八一―七〇

報 告



会 長 若 菜 允 子

会員の皆さまには、益々お元気で活躍のこととおよろこび申し上げます。

昭和六十二年度のワカバ会は、本年五月二十二日の創立六十周年記念総会ならびに記念事業の実施に向けて多忙を極めた年でありました。そこでこの一年の間における記念事業のための活動状況を簡

単にご報告したいと存じます。

まず、六十周年記念事業実行委員会の中の事業委員会が年代を越え多く会員の皆さまが一堂に会して懇親を深めていただこうと各種の協議を重ね、創意工夫をこらして準備にあたられております。委員全員すばらしい企画と実行力を持っておられますが、委員会の回数を重ねるごとに、楽しくかつ有意義な記念総会の姿がはっきり描き出され、今では会員の皆さまに必ず喜んでいただける素晴らしい総会になるだろうという期待感で一杯です。どうか来る五月二十二日(日)の記念総会に是非ともご参加下さいまして会員相互の交流

の輪を拡げていただきたくご協力のほどお願いいたします。

また記念誌委員会においては、委員の皆さまが、第一線で活躍中の編集者を中心に多忙な本務をかえりみず深夜まで取材に編集にまさに超人的活動をされており、多くの会員の皆さまのご協力を得てユニークで興味深い記念誌が完成しつつあります。

記念総会も記念誌も、会員の皆さまのワカバ会に対する熱い思いと奉仕の精神の結晶です。委員の皆さまこれにご協力下さった多くの会員の皆さまそして校長先生をはじめとする母校の先生方に、心から感謝申し上げます。



同窓会創立60周年記念総会 ご案内

第 51 回 総 会

日時 昭和63年 **5月22日** (日) 受付開始AM10:30
開 会AM11:00

会場 母校 議題 昭和62年度事業報告、決算報告

昭和63年度事業計画・予算案審議 会費 **2,000円**

<イベント>バドミントン、バスケット、水泳、弓道など体育系OB会による模範演技、お琴、バンドなど楽器演奏、太極拳実演、60ワゴンバザール、ゲームコーナー、豪華賞品のあたる福引など

★総会参加、イベント参加、見物、先生方、新旧同窓生ともども親睦など盛りだくさんの計画の用意あり!

★クラス会、同期会、クラブOB会など予定があったら前もってご一報を!

★車でのご来場はご遠慮下さい。 ★新入生の諸君へ、当日同窓会から新入会員名簿をさし上げます。

☆ 4月29日の総会はありません ☆

挨拶



名誉会長 藤川 侃二

奉仕を目的として建てられ、卓越した先見性をもって活動されたことに深い敬意を表するものです。

どうか、ワカバ会がこの六十周年を契機に会員の親睦を更に深められ、明るい社会づくりに貢献され、ますます充実・発展されることを心から祈念申し上げます。

「ワカバ」によせて

参与

金原 達人



ワカバ会創立六十周年を記念し心からお祝詞を申し上げます。

歴代の会長さん始め役員の方々御尽力に敬意を表すると共に、同窓生各位の御活躍の賜ものと慶賀の念にたえません。

この喜ばしい年に名門三田高校の教頭として巡り合わせましたことを大変に光栄と存じております。

す。

「ワカバ」と片仮名で書く本会の名称には、親しみとその由緒ある伝統の重みを感じます。

恰も、年輪を重ね、枝を四方にのびた大樹に、毎年芽生える若葉の美しさをみるようであります。

また、時がくれば、淑女を称える大和撫でしの子の雄蕊と紳士を奮い起たせる大和男の子の雄蕊とを抱き、希望の色を彩った大輪の華を咲かせ、芳しい果実をみのらせる木となることを想わせるようでもあります。

「ワカバ」には、永遠に若く、力を秘めた三田の名樹と崇められることを期する深遠な意義さえ感じとれます。

終りに、ワカバ会の御発展と会員諸氏の御健勝を祈念し、合せて

「六十周年記念誌」 発刊準備着々進む

——同窓生の語る昭和史

多数の会員の皆様のご協力で「六十周年記念誌」の編集も着々と進んでおります。インタビュー座談会を柱に、各方面から寄せられた資料とともに、同窓生の語る昭和史をまとめあげようと苦心しております。

記念総会パーティー券入手方法

記念事業委員会では六十回に及ぶ卒業生が一同に会して、楽しく過せるよう、内容の工夫をしております。卒業生による模範演技、スポーツ系OB会参加の試合、祭広場、60ワゴンパザール、豪華賞品の当たる福引など企画しております。

当日会が円滑に進行するように、事前にパーティー券を配布し、人数の概略をつかみたいと企画しております。

パーティー券を希望される方は、各自左の振替口座に二千元を振り込んで下さい。

振替口座 東京2—355698

ワカバ会60周年記念総会

皆様からの一層の御指導と御鞭撻を戴きたくお願い申し上げます。



何の集りだと思えますか。実は若いワカバ会員の音楽分野に進んだ人々のサロンコンサートなのです。昨年三月青山の喫茶店で第二回目が行なわれました。母校、音楽の三沢寿喜先生の御指導を受け、ピアノ、ヴァイオリン、独唱の腕を披露しました。出演者は、38回生。第三回は昭和63年3月20日(日)於「山王オーディウム」問合せは伊藤明子 電話03—788—7482 入場は無料です。

委員会報告

総務委員会

昨年度に引き続いて、本年五月二十二日のワカバ会創立六十周年記念総会にむけて、本委員会の下に設置された「六十周年記念事業委員会」、「六十周年記念誌委員会」の中で、それぞれ活動しています。

委員 高橋 登志(1E)

小野 紘一(8-3)

御子柴大介(26-4)

企画委員会

六十二年度は、当委員会の委員全員が六十周年記念総会の事業委員会に参加し、会員に喜んで頂ける意義ある総会を実施したいと会議を重ねて来ました。

又当委員会としては「自然と親しむ会」としてニコウキスゲの尾瀬の旅「史跡探訪の会」として琵琶湖一周の旅を実施しました。

幸い、高女五回卒から高校十一回卒まで、広い年代に渉る参加者があり、同窓会の縦の連帯感を強めることに役立ったと自負して居ます。今年度も別掲の通り「自然と親しむ会」「史跡探訪の会」を

実施しますので奮って御参加下さい。尚同窓会の企画に対し、御希望、御意見をお持ちの方は、当委員会に御連絡下さい。

委員 佐々木 昭(5ア)

滝本阿弥子(13イ)

中村左都子(7-2)

平山 孔嗣(29-2)

事業運営委員会

軽井沢山荘および鶴の木の駐車場(旧農園跡地・現多摩川グラウンド隣)の運営を行っています。

駐車場には二十七台の車が入っています。

ワカバ会軽井沢山荘の利用状況は、七月十一日から九月三十日まで開荘、大人九百五十名、小人百十五名、幼児四十五名の利用者がありました。クラス会、同期会、野鳥と野草の会、ゴルフコンペ、山荘セミナーなどの企画があり出席者には御好評を受けました。

委員 杉本貴久子(16オ)

山口謙一郎(8-1)

中垣 俊二(8-2)

斎藤 節子(7-8)

広報委員会

今年は六十周年記念総会に向けて、例年より一ヶ月程早く会報「わかば」の発行に当りました。又記念誌委員会の一員としてもお

手伝いさせて頂いております。

会報「わかば」は全会員に送られるもので、同窓会の活動・母校の近況・会員の消息を伝え、また事務所を中心に会員の交流をはかる唯一最大の機関です。会員諸氏の活動状況・同期会・クラス会の呼びかけ、報告等お寄せ下さい。会報の編集に漸新なアイデアと情熱をお持ちの方がいらつしやいましたらお申し出下さい。

委員 市川 英子(18エ)

戸田 雅子(19-1)

御子柴大介(26-4)

会計委員会

会計委員会は、ワカバ会の財政の、適切な管理と運用。そして会の多方面に互る活動を、資金面でバックアップするのが主たる業務であります。

現在五名のスタッフで担当して居りますが、繁忙期には、仕事が集申し、精一杯頑張つて居ります。年額二千万の維持会費に付いては、現在約一千名の方々から御送金頂いて居りますが、目標の半分以上なので、更に一層の御協力を御願ひ致します。

委員 玉置 修次(5-4)

松永佐智子(12エ)

平山 孔嗣(29-2)

竹内 和世(5-4)

理事会等報告

4月理事会(14日) 出席数12名

○予算・決算・総会について

評議委員会(18日) 出席数54名

総会(29日) 出席数280名

○総会・親睦会食・ビンゴ

5月理事会(22日) 出席数8名

○総会報告・会計報告・60周年記念事業委員会報告・広報委員会報告

6月理事会(26日) 出席数14名

○運営委員会(山荘)報告・企画委員会(琵琶湖一周の旅)報告

10月理事会(2日) 出席数10名

○総務委員会(60周年記念事業委員会)報告・企画委員会(史跡を訪ねる会)報告・会計委員会報告・運営委員会(山荘運営)報告・広報委員会(会報30号と内容)

12月理事会(日4) 出席数9名

○総務委員会60周年事業委員会報告・運営委員会駐車場運営について・広報委員会報告

六十周年事業委員会

5月8日出席数 11名

6月5日 10名

7月10日 10名

9月26日 9名

11月13日 12名

12月17日 17名

63年 1月12日 16名

その他小委員会数回。

六十周年記念誌委員会

4月18日出席数 10名

5月13日 6名

7月12日 5名

7月29日 12名

10月20日 9名

11月11日 7名

11月27日 5名

12月15日 10名

12月23日 8名

63年1月12日 7名

他に取材・編集の会合数回



氷上先生を

お偲びして

2A 岩井ソウ



氷上貞子先生が昨年三月六日に八十七歳でおなくなりになった。

先生は大正十二年東京府立第六高女創立時から、昭和四十年都立三田高校ご退職まで四十有余年の長い間英語をご担当になった。私は大正十三年二回生として入学、クラス担任として又英語の教師としての先生のご指導を受けたものである。入学直後、当時仮住いの府立第三高女の校庭で記念撮影が行われた。写真前列中央に丸山校長先生と氷上先生。その右側と後に並んだ私たちはまだ制服も身になじまず実に幼かった。氷上先生はお若くて銘仙の着物に袴を召していらした。その後五年間私たちは先生のお世話になり、大分ご迷惑をかけたこともあったと思う。校外教授や修学旅行の時には少々いたずらをしたものもいたから。しかし先生の思い出と申せばやは

り英語である。先生は優れた教師でいらした。それは結局先生の誠実なお人柄によるものであるが、ここには具体的に六十五年後の今日でもなお大いに学ぶべき先生の教授法の一部を述べてみようと思う。

第一に発音の徹底的訓練。これはD・ジョンソンの発音符号と共に与えられた。初歩段階では少々誇張しすぎ位に口、唇、舌などを動かす訓練をした。次にご葬儀の際、長野栄子様もお触れになった「四つ切」テストに加え書きとりの練習はいつも私たちをビリビリさせた。文法のご説明は明確そのもので、ことに現在完了や仮定法のそれは当時の先生のご口調のひびきがそのまま身に残る。なお短期間ではあったが英国人の先生ミス・コスター、ミス・オルダムンによる聴きとりと話し方の時間があつたことは公立校には稀な特典で、校長先生のご理解と共に氷上先生の先見の明を示すものではなからうか。

先生のご貢献は英語教育の面のみではない。学校全体の運営について、ことに教務関係のご活躍も大であったと洩れ承る。さらに今その六十年を迎えんとしている「ワカバ会」の発展、諸事業のためにも軽井沢山荘取得の件を含めて

非常にご尽力になったことを忘れることは出来ない。ご退職後ワカバ会その他で華道のご指導に与つた人々も多く、この場合も先生は若い人々を良く理解なさり巧みにそして熱心にお教えになった。先生のお仕事に対する真摯なご姿勢を支えたものは何だったの

であろうか。先生は青山女学院在中洗礼を受けてクリスト者となられた。自ら語られることはなかったがこの信仰の光に導かれて教育の道にご生涯を駆け通されたのではないだろうか。その同じ光により卒業後の教え子に対しても必要に応じ、種々の場面で愛のご配慮を注がれたのである。しかもこれらの事実はおなくなりになったことを機に始めて周囲にあらわになつて来たことであるということ。先生のお人柄をよく示していると思う。晩年にお姪御様をつづいてご令弟をお亡くしになりおさびしくいらしたことであろう。先生は八十七年の御生涯を神よりの賜物を十分に生かしてその長い馳せ場を乗り通された。今、教え子たちはご恩の深さを感謝する。しかし私たちのなすことは不完全である。先生のご生涯を正しく評価し、最もふさわしい嘉賞をお授けなさることは神のみ手におゆだねして筆を擱く。

悼 砂原美智子さん

13ア 浜田泰子

八月二十七日 砂原美智子さん御逝去の衝撃的なお報せを受けてからもう三カ月の時が経ってしまいましたが、いまだに信じられない気持ちです。「元氣？」とそれこそ元氣な明るい声が受話器から聞こえてきそうな気がしてなりませ

ん。この様に我が国のオペラ界、音楽界の重鎮としての業績に昨年には紫綬褒賞を受賞、この九月には勲四等宝冠章に叙せられました。

今改めて砂原さんの年譜を拝見すると、昭和二十二年藤原歌劇団公演「ラ・ボエーム」のムゼッタ役でオペラ歌手としてデビューして以来昭和二十七年にはパリ国立オペラ・コミック座の正座員となり、お蝶夫人をはじめ数々のオペラの舞台を踏み世界でも超一流のプリマドンナといわれる様になりました。そして生来のいさぎよ

さから惜しまれながら昭和五十七年沖繩復帰十周年記念公演「沖繩物語」を最後に舞台から引退されました。その間、毎日音楽賞、文化庁芸術祭賞、ザルツブルグ音楽祭オペラ賞等を受賞、イスラエル・ナショナルオペラの永久専属歌手としても選ばれました。

しかしその後も昭和音楽大教授、日伊音楽協会理事、日本オペラ振興会評議員等々相変らず忙しい日々を過ごされましたが殊に後進

の方々を育てることに情熱をもち、個人的な悩み事にまで親身な相談相手になり教育者としても立派な方だったと思います。

音楽葬(62・9・28於青山斎場)「ある晴れた日に」

泰子

篠塚光様を
偲んで

1C 中村尚子



昭和六十二年六月十六日深夜、
クラス会の終ったその夜まるでそ
れを見届けられたように篠塚様は
七十七年の御生涯を閉じられまし
た。お生れは明治四十三年四月二
十九日でした。彼女は人生の大半
を第六高女ワカバ会のために捧げ
られました。篠塚様は才気煥発と
云うよりは頭脳明晰なお方で数学
が得意でいらつしやいました。
理智的な反面温情溢るる世話好き
な方でした。私は一年三学期に第
六へ編入した者で当時数学が進ん
でいて一年生で、すでに代数をし
ていましたので、私が困っている
時は篠塚様が何くれとなく教えて
下さいました。私はそれを終生忘
れません。そして奇しくも卒業後
は御一緒に日本女子大学へ進学い
たしました。大学を卒業してから
は彼女は会長として全身全霊をワ
カバ会に捧げていらつしやいまし

た。彼女は女子大には殆んどお顔
をお出しになりませんでした。そ
れに反して私は女子大学の方に入
り浸り第六の事はすっかり篠塚様
にお任せしたきりで誠に申し訳なく
存じて居ります。せめて最後に御
逝去の事を直ちに女子大学にお知
らせ致しました事でその責めを果
させて頂いたつもりで居ります。
ここで会長時代の長年に渉る数々
の御功績を縷々申上げるべきでし
ようがその事に就いては他の方に
お譲りさせて頂きまして、私は篠
塚様が最後に出席された鎌倉長寿
寺でのクラス会の時の思い出を書
かせて頂きましょう。昭和五十五
年六月一日のこと出席者は十七人
その頃のスナップをみますと皆元
気ですのに篠塚様だけが欠けてし
まいました。帰途北鎌倉駅に向っ
て川べりを歩いておりましたその
時篠塚様の左腕に抱えていらした
水色の地に桜の花模様の縮面の風
呂敷包が突然通行人の腕に触れて
あつと云う間に砂地の地面に落
ち、ずるずると這うように這って
ゆき私とその包みの端をおさえる
間もなく十米位下の川の中に落ち
てしまいました。篠塚様と私は茫
然とその包を眺めるしかなく奔走
してみても駄目でした。
その光景はずっと私共の胸に焼
き付きお会いする時はいつもあの

追 悼

包みの事を名残り惜しんで居りま
した。昭和五十七年二月夫の告別
式の時には彼女もお詣り下さった
程お元氣になつていらしたのに再
び転ばれて骨折遂に寝た切りとな
られました。七年有余病床にあつ
て辛抱強く治療を受けておられま
した兄上様始め、高橋登志様ワカバ
会の皆々様の懸命の御看護と御快
癒の願いも空しく遂に永遠の眠り
に就かれてしまわれました。如何
に天命とは申せ、唯々痛恨の極み
でございます。祭壇の御遺影の温
容をそのままに永遠に安らかな眠
りに就かれます様ひたすら御冥福
をお祈り致します。 合掌

拙き句を捧ぐ

友はいま安らかならむ

友の星一つ消えたりちろ

鳴く

走馬灯逝きたる人は

めぐり来す

62・10・30

謹んでご冥福を
お祈りいたします

小林つや江 (旧職員)	年月	河野 治代 (渡辺)	7エ
永田 貞子 (旧職員)	62 5	宇野野あや子	8オ
篠塚 光	62 6	水上恵美子	9イ
(名誉会長)		矢野登世子 (大塚)	9オ
丸 信子 (川井)	1 A	黒木 伸子 (磯部)	10ア
田中 ハナ	1 B	森田 スミ (富田)	10イ
原口須賀子 (理恵)	1 B	大石 園子 (中島)	11イ
塩見 富美 (福富)	1 C	藤原 禎子 (森)	11オ
波田富喜子 (金口)	1 D	小川美枝子 (金成)	12ウ
脇本 順子 (城戸)	1 D	鈴木 幸子 (河谷)	12オ
加瀬 糸 (斎藤)	2 B	巨勢 弘子 (今井)	13ア
市尾須賀子 (江越)	2 C	砂原美智子	13ア
山田恵美子 (飲尾)	2 E	塩尻 常子	16イ
小谷松祐子 (鈴木)	3 D	池田智恵子	修18エ
藤井 りん (柳橋)	4 ウ	宇津木みち子 (田中)	女23・4
原口 左与	4 オ	浜 敏子 (嶺)	2ー2
高橋美代子 (森江)	5 ウ	山崎 賀子	2ー3
佐藤椰子枝	6 ア	篠原 貞子 (岡本)	4ー4
関宮 幸子 (渡辺)	6 ア	服部 三男	6ー3
足立千枝子 (鎌瀬)	6 ウ	本藤 至	10ー5
宮長 久子 (笠原)	6 オ	萩原 真	17ー6
		山崎 重男	21ー5
		北村 素子	32ー6
		長谷川敏枝	36ー3
		谷田川倫彦	36ー7

▼ワカバ会的事务

▼ご連絡は

108千港区三田一四一四六

電話 (03) 四五一〇二二七

振替東京 八八一一七〇

時間 午前十時半—午後四時
休日 土曜日・日曜日・祝祭日



三田高生活を

母と娘でふりかえれば

14-4 大山瑞代
38-3 晴子

「青空のさとす真理……」二十数年忘れていたはずの校歌が口から思わず飛び出す。過去への懐しい思いが温かい気流の様に広がってくる。母校に娘を入学させ、そして、卒業の日を迎え、私は母親として式に参列していた。校歌を口ずさみながら、卒業する娘とかつての私とを互いに重なり合わせ、子供の成長を祝うと共に若き日の自分を懐しく回顧していたのである。

こうして三年前に卒業した娘は今、高校生活をふりかえり、次の様に語る。

「三田高校は高い教育水準と豊かな国際性、自由で開放的な雰囲気を持った学校でした。生徒同志お互いに寛大であり、明るく平穩

な生活の送れる空間でした。生徒達の価値観は常に平衡を保つことに主眼がおかれ、少しでも急進的な主張に対しては多数のクールな視線が注がれ、その力を弱めてしまふのでした。でも、この平衡を保った平穩無事な校風は、実は、現在の教育制度による管理の結果生じてきたもののなのです。生徒の自由な想像力と積極的な主張の発露は、五段階評価による価値体系の中に閉じ込められてしまっています。人生観や世界観の定まっていない高校時代に、様々な摩擦や苦悩を体験し、独自の生き方を模索することが必要であることを考えれば、三田高校での三年間の「平和な生活」は一概に良かったとはいきれないのです。」



不思議な巡り合わせから、今私は三田高校で講師をしている。時代が大きく変わり、学校の周辺もすっかり別世界になってしまった現在でも、生徒達の表情の中に昔から連綿と受け継がれている三田高生らしさを感じ、言いようのない

い親しみを感じている。そして、この親しみは私自身の過去を慈しむ気持ちへと連結する。母校に対する懐しい思いとはいったい何であらう。それは在校中の体験の良し悪しによって作られるものではなく、その後の長い生活の起伏のひだの間でゆっくり発酵し、かすかな芳香を放ち始める、いわば、人生の副産物なのではないか。それは、過去を否定することによって現在の自分を確立させようとする

甦った名器物語

5ア 佐々木 昭

旧い卒業生は御承知でしょうが母校にはドイツ製シュタインウェイのフルコンサート型のピアノがありました。これは初代校長丸山丈作先生が「ピアノを寄附したい」と申し出た人に「寄附してくれるなら世界一のピアノを」と気宇壮大な希望を述べられて手に入れたものと聞いて居ります。

以来このピアノは授業に、コーラスの練習に、種々の学校行事に活躍して来ましたが、年を経て老朽化し、講堂の片隅に眠ったまま果ては夢の島行き運命かと思われて居りました。ところが先年、ヤマハの若い調律師の人が「勉強のために貴校のシュタインウェイを手がけてみたい」と申し出られた

る若いわが娘とは違って、過去も現在も、すべてを自然な形で受け入れられるようになった私が、安心して心を委ねることの出来る感情なのである。

それゆえ、私は、娘の心に、たとえ今、高校生活の思い出を温かみのない言葉で語り、教育制度を批判するだけであっても、遠い将来、懐しい熱い思いが広がる日が必ず来ることを確信しているのである。

のがきっかけとなり、復旧の運動が起りました。

現校長、前教頭の御尽力により都から修理の予算を出して貰うこととなり、調律師の方の努力によってピアノは見事に甦りました。



ワカバ会軽井沢山荘の利用案内は「山荘トピックス」として別刷にしました。

六十二年十月三十一日、若手ピアノニスト高橋祐希子氏を独奏者に迎え、ピアノ披露の演奏会が母校音楽講堂に於て催され、丸山先生の御息女藤井ヤス氏(7エ)も出席され、講堂一ぱいの生徒、PTA、後援会の人々の前で美しい演奏が行われ、私もワカバ会を代表して出席しました。プログラムはベートーヴェンのソナタ「月光」、モーツァルトの「トルコ行進曲付ソナタ」、ショパンの小曲数曲で、ピアノの音色は現代のピアノの広い会場を前提とした華やかなものとは違い、古き良き時代を思わせる落着いたもので、室内楽的な良さが感じられました。今後とも適切な管理のもとにこのピアノが何時までも生き続けることを願って止みません。

受章のおしらせ

昨年の叙勲で小川(白石)安子さん(4エ)が「勲四等宝冠章」を受章されました。



小川さんは昭和六年本校を卒業された後、東京家政専門学校(現東京家政学院大学)に進まれ、その後、衛生試験所(現麴町保健所)の研究生になられました。そしてご結婚後の昭和二十八年、名古屋の相山女学園大学家政学部にご奉職され、以来三十余年にわたり調理学の研究をなされ現在もご活躍中です。

今回の受章の理由は家政学、調理学を学問として確立した功績に對しておられたものです。なお、小川さんはワカバ会の名古屋支部長としてワカバ会を支えていただいています。

また昨年の褒章受章で石井好子さん(13イ)が紫綬褒章を受章されました。

石井さんは皆さんご存知の通り

日本の代表的なシャンソン歌手で最近ではエッセイストとしてもご活躍されています。また一昨年九月にはワカバ山荘でセミナーを開かれたり、昨年は三田高PTAで講演されたり、母校のためにいつもご尽力いただいています。

両刃の剣

—OBとして思うこと—

37—5 石井典子

三田を卒業してから三回目の夏もコーチとして水泳部の活動に参加しました。現役といっしょにあのプールで泳いでいると私が過した高校三年間の部活動での思い出が甦ってきます。考えてみると現役時代は部活動をやりて学校へ通っていたようなものでした。それだけ私にとって魅力のある部だったからです。もちろん、楽しいことばかりがあったわけではなく、体力的に苦しかったことや、小さな社会であるにもかかわらず、その中で人間関係の複雑さに悩んだこともありました。しかし、それらのことがその後の私にとって非常にいい経験となったことは確かです。毎日何かの問題にぶつかっては一生懸命に考え行動していた自分が、今では懐しくさえ思われます。

このような経験を後輩にも伝え

たいという気持ちで卒業後も部活動に参加していたわけですが、OB

となるとやはり立場上ある葛藤が生じてきました。それは活動の主体はあくまでも現役であって、OBはアドバイザーにすぎないというところについてのものです。私はどうも自分がいた頃の水泳部というものを意識しすぎてしまい、それにあてはまらないものは認めたくないという気持ちがコーチングを始めたころ、とても強くありました。また、何か問題が生じた時にアドバイザーの域を越えてしまったこともあり、年功功績という言葉から確かにOBが出ていけばうまく問題が解決するというところもあり、それは誰のための部活動かということになってしまっています。このようにOBの存在とは、立場を考えたうえでのものでなければ、現役にとつては「両刃の剣」となってしまうわけです。最近になってやっとそのことに気づき、コーチングにおける姿勢にも多少のゆとりができたと思います。やはり後輩に水泳を通していろいろなことを教えるのは楽しいことであり、同時にそこから新しい何かを得ることもできます。これからも、時間の許す限りコーチングに参加したいと思っています。

合宿だより

石井さんのように普段のクラブ活動を指導してくださっているほかに、六十二年夏の合宿にも多数の会員の方が補助指導員として参加してくださいました。その中公認コーチと補助コーチの方を紹介します。(敬称略)

- ・演劇・金森 照子(39—3)
- ・卓球・萩原 一晃(39—7)
- ・体操・佐古百合子(38—6)
- ・斎藤 正巳(38—6)
- ・軟式テニス・
- ・孕石 朋子(38—4)
- ・女子バレーボール・
- ・石田かおる(38—3)
- ・池田 絵理(39—4)
- ・弓道・鈴木 洋二(39—7)
- ・放送・名倉 義実(38—7)
- ・高野 聡(38—8)
- ・ワンダーフォーゲル・
- ・石井 啄也(39—4)
- ・北村恵美子(39—8)
- ・サッカー・渡辺啓悦(37—8)
- ・保坂 英俊(37—8)
- ・男子バスケットボール・
- ・宮島 誠(37—6)
- ・鷹羽 邦治(35—7)
- ・女子バスケットボール・
- ・堀込美奈子(37—4)

渡辺理恵子(39—6)

男子バレーボール・

村田 孝幸(38—6)

渡部 高裕(38—8)

・硬式テニス中沢拓弥(37—7)

香取 昌志(34—8)

保谷 邦之(36—2)

高久 雄司(37—2)

・バドミントン・

落合 孝之(37—2)

高田 尚美(38—4)

・陸上競技・

斉藤るり子(37—2)

猪井 朋宏(37—2)

・アメリカンフットボール・

足立 晋(29—2)

小泉 俊博(36—2)

・剣道・平田 守(36—5)

・ラクビー・

福吉 円(36—5)

・吹奏楽・岩崎 里美(36—6)

・望月 朝子(38—5)

・室内楽・重原 愛(38—2)

・岡部 周子(38—4)

・西川 智子(37—4)

・フォークソング・

山本 巖(37—7)

上田 和寛(37—5)

勝沼 亜以(37—4)

・コーラス・榊原智子(36—5)

藤井 利佳(39—5)

※なお、水泳部は水不足のため合宿中止になりました。



東北支部

独眼竜政宗、東北初の地下鉄開通と話題豊富だった昨年の仙台。仙台に本拠を置く、東北ワカバ会も、今年は二十周年を迎えます。昨年二月、永年会長を勤めて下さいました、海鋒歌子様(1E)の訃報に接し、会員一同淋しさを隠すことが出来ませんでした。

新緑五月、六十二年度第一回を開催、新会長を寺嶋辰代様(7ウ)にお願ひ致しました。

秋十月、第二回を開催、新旧会員共に楽しい一時を過ごしました。地方の時代と言われていますが、ここ東北地方でも、多くの先輩のご活躍は、特筆すべき事だと思います。今後も二度開催の基準を守り、楽しい会を続けたいと思います。

静岡支部

六二年の静岡ワカバ会は、十一月四日、清水市上原の十七夜山荘で開かれました。旧東海道に面し交通量はかなり多いのに、一歩寺内に入ると、落葉散り敷く石段を秋雨がしっとりと濡らし、古い和室の灯火はほの暗く、まことに閑

寂の極みでした。

といっても、第一回生の福山信子様、伊藤はみ様から、高16の荒稔子様まで二十一人の女性の集まりですから、その昔の思い出話や、脱サラ奮闘記、もの忘れ現象を嘆いたり賑やかに話が弾みました。この付近の丘陵地に新しく県立美術館ができたので、時間のある方には寄って頂いたりして心豊かな一日を過ごすことができました。

静岡県下には、第一回から高31回までの同窓生がちらばっております。わかば会の集まりは、年令の垣根を越えておしゃべりできる楽しい会ですし、それぞれの趣味や特技を通じて新たなつながりも生まれてまいります。もし、会に出てみたいけれど、知らない人ばかりでは、と、二の足を踏む方がいられたらどうぞご心配なく、とにかくお出かけ下さいませ。

名古屋支部

ワカバ会の皆様お元気のことと思います。

支部の皆様もなかなかお元気ですが御家族の御都合などでお集りは十人余りでございますがいつもにぎにぎしく花がさきます。

昭和六十一年は十一月八日(土)昭和六十二年四月十日でした。六十年は名古屋市内で、六十二年

は三重県桑名市柿安本店でした。お世設の方々はその前年の集りの時にきまります。話題の中に三田高校になってからの方が少いことしたがって男性がだれ一人集らないということでした。なんと集りが終わってから男性会員からの連絡が一人ありました。来々からの御連絡をおハガキをさし上げました。これからは増加されることを期待いたします。

名古屋も随分都会的に変わってまいりましたがかなり交通の便もよくなりました。4エ 小川安子

関西支部

関西ワカバ会は活潑に年三回の集会を行っております。新春は二月七日、神戸ポートピアの風月堂の優雅な丸いホールでフランス料理の後、中世ヨーロッパのバロック音楽とルネッサンスの舞踏を拝見、お正月らしい華やかなパーティでした。春の行事は五月二十六日、大阪ホテルプラザで精神病院長の「老人呆けとは」という有益なお話のあと朝日テレビを見学、番組にもチャリと写されました。秋の遠足は十一月二十八日、播磨の小京都といわれる脇坂三万五千石の城下町、お醤油とそうめんの竜野にバスで参りました。夏には永田先生のお見舞に伺い

ました。小原を保たれた後亡くなられました。謹んで御冥福を祈ります。

若い会員が増えて喜んでおりますが、男性方がまだ黒一点の感じ

で出席の少ないのが残念です。12イ 波部千代子

京都支部

一年のたつのは早いもので、思い返せば今年のもので、思い返せば今年のもので、京都ワカバ会は早春に一度お集まりをしたのみで、いつしか終わってしまいました。

一月二十一日、下賀茂神社に隣接した静かな料亭吉泉で、お集りの方は

十人でした。新しく入られた方、若い方、又一度京都を離れても戻られて出席して下さい。方など、久しぶりのお話なども尽きず楽しい一時を過ごしました。秋には私のクラスの方が御旅行の途中に京都見物に立ち寄り一日お供をして高雄のもみじ「しょうざん」のお庭の美などを満喫しこれも京都に住めばこそと、当地に住んでいることを改めて感謝しております。どうぞ皆様も京都

支部連絡先					
札幌	5エ	白居 和子	〒064 札幌市中央区南17条西12丁目	☎011-561-8810	
東北	7ウ	寺島 辰代	〒981-04 宮城県桃生郡鳴瀬野蒜字北赤崎32-7	☎02258-8-2028	
浦和	1C	宮田 りき	〒336 浦和市東仲町30-20	☎0488-82-3020	
千葉	11オ	豊住 美枝	〒272 市川市中山4-7-12	☎0473-34-3032	
湘南	7ア	永井喜代子	〒251 藤沢市鵠沼海岸2-8-26	☎0466-36-7706	
静岡	18.4イ	田中 和子	〒420 静岡市5番町20	☎0542-52-8831	
名古屋	4エ	小川 安子	〒464 名古屋市中種区棚町33-29	☎052-762-9347	
関西	1C	辰馬 道	〒662 西宮市千歳町4-18	☎0798-33-0961	
京都	1D	米田 道子	〒651 京都市右京区西院東淳和院町53	☎075-311-2480	
福岡	2E	富田 保子	〒812 福岡市東区貝塚貝塚団地5-45	☎092-641-0381	
大分	高4	工藤 延子	〒870-02 大分市政所473	☎0975-92-0480	

にお越しになられたらお声などかけて下さいませ。
1D 米田道子

第二回自然と

親しむ会

6-1 青山千世子



沼山峠から大江湿原に入り、夕方無数のイワツバメが飛び交う長蔵小屋に到着。オゼアザミが咲き小川にはイワナが見られました。

翌朝四時半、三平峠入口まで尾瀬沼のほとりの木道を歩むと、右手に山全体が柔らかな朝の光に包まれた燦々岳が静寂と神秘さをたたえた沼に影を落とし、霧が東方からゆっくり湖面を流れ墨絵のような美しさが見渡せ心が清々しくなりました。燦々岳南麓の樹林帯を経て屋近く第二長蔵小屋着。昼食後尾瀬の流れが一つに集った平滑の滝へ、木陰のない真昼の原は汗が吹き出しました。翌朝尾瀬が原は朝霧に包まれ幽玄の世界でした。サワラン、トキソウなどの花が広い湿原にひっそりと咲き、中田代にはオゼコウボネ、ヒツジグサの咲く地帯が多く、水の中に至仏山が写っていました。ホオジロ、メ

ボソムシクイが鳴き、ヨツピ川近くのこの辺りに、今回お目当てのニッコウキスゲが咲き乱れ、遠くの拋水林まで黄色い花の絨絨が広がって満足の極みでした。昨年六月に訪れた時は山に雪が残り、シラカバ、ダケカンパの芽吹き、美しいミズバショウの咲く頃でしたが、その時に比べ汗のしたたる暑さでしたが、好天に恵れました。

第一回史蹟探訪

に参加して

7-3 増田寿美江

九月二十六日、ワカバ会一行、二十六名を乗せ、バスは琵琶湖一周十一面観音めぐりにひた走る。

沖島、竹生島を右に見、青い空真赤な彼岸花に縁どられた実りの稲田の美しさに、これからお会いする仏達の加護を感じる。

そもそも観音様は三十三体に変化し私達衆生を救う仏さまであるが、とりわけ十一面観音は万病消滅、寿命長遠と説かれて安楽な生活ができるという菩薩さまである。

この旅では二十ヶ所の寺社をお参りしたがどの仏さまも、ある時は厳しく、ある時は優しく、信仰した人達の心の支えになっていたことだろう。お守りしつづけた何万人の祈りが聞こえてくるよう

だ。千年経った今も木彫りの柔らかさ、暖かさを宿し、息吹きさえ感じ、そっとふれてみたくなる。仏の見方も人によって違うのは当り前のことだが、私は彼岸寺の十一面観音菩薩の前に、言葉もなく唯々頭下して拝礼するばかりであった。

第二回山荘セミナー

加藤恭二子先生

を囲むつどい

ワカバ会軽井沢山荘を、会員の親睦の場として活用したいとの意図で企画された「山荘セミナー」は、第一回石井好子さんを囲む会に続き、第二回は元母校音楽科講師でソプラノ歌手の加藤恭二子先生をお迎えして、9月5日に開催されました。

先生は、古典から現代まで幅広いレパートリーを持つ実力派コンサートシンガーで、日本語の美しさを生かす独特の発声法を体得されて、日本人の作品を数多く歌われ、昭和57年には、日本の音楽文化に貢献したとして、「第12回リ

サイタル、清水脩作品の夕べ」が文化庁芸術祭優秀賞を受賞されました。先生はまたコーラスのご指導にも、惜しみなくその発声法を伝えて情熱を注がれ、音楽のたのしさをたくさんの人達と分かち合っておられます。

先生が、今日の発声法を体得されるまでのご苦心や、音楽に対する愛情を淡々とお話し下さった後「まず、皆で歌ってみませんか」とのお誘いに、上は第1回生から下は高校29回生まで18名(中、男性1名)の参加者によるコーラスが始まりました。曲目は「夏の思い出」「ドナドナ」等。みんながよく知っている歌のせいか、力いっぱい元気すぎる歌い方に、「詩を考えて。感情をこめて。情景を思い描いて……」と一つ一つ丁寧に指導下さり、約一時間後には二部合唱で、自分達も驚くような美しいハーモニーが山荘をつつましました。参加者一同、歌う事の楽しさを大いなる収穫として、大好評裡に閉会いたしました。

ワカバ山荘の

同期会

1C 倉田君恵

山荘での第1回生同期会の集いが始まって七年目になります。参

加者は七十路を越える老齢者ですが元気で多少足が不自由な方でも楽しく参加しています。年々変わった趣向の計画で地域の文物の探究を楽しんでいます。期日は8月末の3日間、計画は高橋登志、秋山初枝の旧母校職員、費用は約三万円になっています。初めは国鉄を利用していましたが、ここ四回は26人乗りのミニバスを利用して見学遊覧場所へのりつけ便利に使っています。満席にみたない時は各自の友人親戚を誘い、ここ二年間は11回の方々の級会を相乗りさせて頂いています。

遊覧場所は例えば車山・霧ヶ峰・白根・小諸・浅間・小瀬・新鹿沢・秋津牧場・北沢美術館等々山荘を根拠にその付近のドライブを楽しみ乍ら廻っています。また最終日はレマン湖畔でショッピングを楽しみます。銀座の名店三越等の出張店でよい品が安く買えます。

62年は1回生が喜寿を迎える年になりますので最後の夜はパーティーを開きました。コック長が出張して工夫をこらした御馳走と11回生の方々がワインを寄贈して下さい、とても楽しい雰囲気でした。1回生は今後も続けるつもりです。恒常的にこのような会合をもつと都合のつく年に参加した

り、皆勤の人もあり、新顔も増えて旧交をあたためて年中行事の楽しみとなってきます。皆様もこのような同期会や級会を企画なさっては如何ですか。

十五回ア組の

歴史

15ア 西堀 恵子



た。時には地方在住者の上京を「緊急クラス会」と称して歓迎し、校舎改築の時は校門前に集合して、旧校舎とのお分れ会をしました。還暦祝は東京会館でした。二次会に繰り込むことも度々ありました。このクラス会毎の写真は二冊のアルバムに集めてあります。又、昭和十二年の入学以来五十年間使ってきた会計簿には、最初十銭、現在千円の年会費入金や、通信、慶弔等の費用支出を記入してあります。クラス会は幹事がこのノートをバトンタッチし乍ら続けて来ましたが、この会計簿とアルバムは半世紀に渡る私達の歴史を物語って居ります。これからもこの交友の輪を大切に、「15回ア組の歴史」を永く綴って行きたいと思ひます。

高校7回生

同期会

7-6 東山慎次郎

昭和62年11月14日、高校7回生の同期会が三田中国飯店に於て盛大に催された。

当日は、先ず午後1時より約40名が母校を訪問、昭和52年に竣工成った新校舎を見学し、半分に縮小されたオセンチ山前のピロティで記念撮影を行った。



男女共学3期生たる7回生の在学中は、校庭の狭さに、ラグビー部、野球部などは練習もままならず、芝公園をはじめ方々に練習に行く毎日だったと、今は広々と拡がる校庭をつくづくと眺めた。

三田中国飯店には、横山先生、元木先生をはじめ、総勢一〇〇余名が集合し、活気が漲っている。三年振りの同期会は、昭和11

12年生れで構成される7回生が、人生の折返点・50歳に達したことと共に祝おうと企画されたもので、今や先生かと思まう貫禄を備え、髪に霜おく紳士淑女も、会えばたちまちタイムスリップして高校生さながらの賑やかさ。来るべき21世紀に向けて、更に若々しく前進して行こうと、意気盛んに散会した。

八月の熱い

同期会

19-4 相川統樹

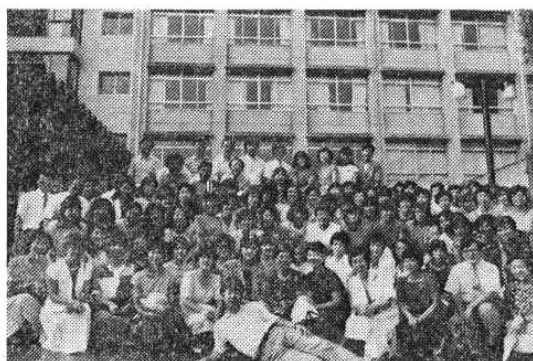
昭和四十二年卒業生の同期会が、昨夏八月学校の隣シャトー三田の中国料理店で開かれました。

岩山・滝本両先生を囲み、有沢君の昔と同じくしゃべりまくる名司会、課長職にある仲君の写真撮影などを中心に、二次会、三次会と夜更けまで喧噪と懐かしさの中で過ごした一日でした。

最も遠方から駆けつけてきた人は関君（甲府市）でした。

在学中もそうでしたが、久し振りに感じたことは、宮崎さんを初めとする幹事役の女性連の事前、当日、事後の完璧な仕事振りで、また当日皆さんにお会いして、三田の女性のパワーは凄いと再認識したことです。このような力が我男

性中心の社会でまだまだ日の目を見てはいない状況と思ひますが、完全に表に出てきたら、我国はさらに卓越したものになり、一方で経済摩擦がより激化するのかなあと考えたりしました。一寸難かしい話をしてしまいましたが、次回は5年後を目標に今回出席率の悪かった（100名中15名）男性諸氏の出席が女性より渴望されています。現在学校には宮崎さん（戸田先生）、ワカバ会事務局には藤田芳子さん（現佐藤）がいらっしやいます。何かあったらご連絡下さい。また私も会社の若い女性と飲みに行くことは飽きました（本当は殆んどないのですが）。是非声をかけて下さい。いつでもお付き合いさせて頂きます。



母校 だより

教職員のご異動

△ご勇退△

宮畑栄夫先生（保健体育）

△ご栄転△

山藤常雄教頭先生が校長として都立府中西高校へ

豊田勝弘先生（国語）
都立白鷗高校へ

天井勝海先生（社会）
江東区指導主事に

英 勇先生（数学）
都立青山高校へ

徳峰良昭先生（数学）
筑波大附属中学へ

前田忠造先生（英語）
教頭として都立上野忍岡高校

（定）へ

河西三千穂先生（英語）
都立三鷹高校へ

吉野順子事務主事、都立蒲田高校へ

籠島雪子司書、都立忍岡高校へ

△ご着任△

金原達人数頭先生が都立南多摩高校より

中沢修二郎先生（国語）
都立蒲田高校より

鈴木美智子先生（数学）
都立竹台高校より

小栗洋先生（数学）
都立田園調布高校より

伊藤益生先生（数学）
都立田柄高校より

高橋清文先生（保健体育）
都立大崎高校より

安保尚子先生（英語）
都立小松川高校より

斎藤隆事務主任が教育庁庶務課より

篠田和子司書が都立八潮高校より

プールと私

旧職員 宮畑 栄夫



私が33年もの間在職した理由の一つに「室内プールの存在」がある。今のプールは二代目だが、初代はワカバ会館と一体に組み込まれた幅8mとやや小ぶりだが、3m、1mの飛込台、温水、暖房、濾過装置つきの、学校プールとしては最高級のものであった。もっとも戦後10数年間は温水、暖房、

濾過装置が使えなかったもので、当時の生徒諸君は、いつも水が冷たく濁ったプールという記憶が残っているかも知れない。

そのプールが校舎全面改築のために取り壊される時のことである。工事は、壁を大きな鉄球で打ち壊し、次にシャベルカーでプール本体を壊すという手順で進められた。当時私は、学校の変って行く様子を残しておきたいと思い8ミリカメラで撮影をしていた。

作業が進んで、道路側に高さ約13m長さ30mの壁一枚が残った。これの取壊しは道路側なので危険防止のため、柱の根元を打ちかいて中の鉄筋を焼き切ったうえ、壁の一番高い所数ヶ所にワイヤーをかけ、歯車でワイヤーを巻きながら校庭側に引き倒すというやり方であった。私は最後の壁が倒れる瞬間を撮るために最も見えやすい位置に陣取ってカメラを構えた。

ワイヤー巻き上げと同時にシャッターを押しつづけた。ファインダーを通して私の眼には倒れて行く壁、倒れた瞬間の土煙、倒された壁の残骸がはつきりとうつつた。でき上ったフィルムを映して見たが、一番残しておきたかった最後の壁の倒れる瞬間はただ画面一ぱい緑一面で何も写っていないのである。そのまま緑が続きやがて

緑が暗れて、壊れた壁が横たわっている映像が現れてきた。その間約10秒、私が哀惜の念にかられながらシャッターを押し続けた時間である。あるいは会員皆さんの、会館を惜しむ思いがこもった緑であろいか。今もそのフィルムは緑の空白を残したままである。

在学した諸君にかかわる思い出は多数ありますが、どれか一つをとり上げるのは難かしく、このようになものになりました。

着任ご挨拶

9-3 鈴木美智子（旧姓・水野）



このたび三田高校に着任いたしました。卒業後丁度三十年、この間ほとんど母校を訪れることはなく、同窓会にも出席せず、ご無沙汰しておりました私にとって、三田への転任は少々気の重いことでした。

しかし、築山の桜がほころびはじめた四月、すっかり変わってしまった三田の街の風景や、新校舎、

見憶えのない校服姿の生徒達に接し、新たな気持で勤めはじめることができました。

昔のおもかげは、なにもないと思っていました。いくつか変わらぬものを見つけました。それは、黄色いナデシコのバッジ、校歌、築山、昔講堂にあったスタインウェイのピアノ、そして体育祭の出し物「メイボール」です。

浦島太郎みたいなので、言うまいたいながらも、教室の窓から東京タワーを見て「私の頃はまだタワーは完成してなかった」とか「当時は赤羽橋に都電が走っていたね」などと口にして生徒に笑われています。

他校をいくつか経験した者の目から見ると、今の三田高校の生徒はなんとこのびのびとしていることかと思えます。海外からの帰国生の数学のクラスを持っていますが、生徒がとても積極的です。また休学中の生徒が多くて驚きましたが、そのほとんどが海外へ留学中で、年度途中の生徒の出入りが大分あるようです。

教員としての三田での生活がまだ一年も経っていないため、わからないことが多くありますが、今後良いと思われる校風を若い人達にそれとなく伝えていく役が果たせたら幸いだと思います。

「企画委員会主催」

第三回 自然と親しむ会

本年は晩夏の尾瀬に沢山の花をたのしむ二泊三日、講師は前回と同じ笠原最季雄先生です。

尾瀬は初夏の水芭蕉があまりにも有名ですが、晩夏は尾瀬の花々が最も数多く見られる時期なのです。東京より沼山峠下までバスで直行します。皆様方の参加をお待ちしております。

。期日 8月22日(月)～24日(水)

。定員 20名(申込先着順、定員になり次第締切り)

。参加費 約2万2千円(バス代、宿泊費、交通傷害保険その他)

。申込 4月27日(水)までにワカバ会事務所にて電話で。

。行程 第一日、沼山峠下より徒歩約3km、長蔵小屋泊。

第二日、徒歩約14km、第二長蔵小屋泊。

第三日、徒歩約9km、鳩待峠よりバス。東京帰着は17時40分頃。

要項は参加者全員に配布いたします。

。要項は参加者全員に配布いたします。

第二回 史跡探訪の会

前回好評の十一面観音めぐりに続き、今年は兵庫と吉備路の秋を訪ねます。講師は笠原最季雄先生。関西方面にお住まいの方も是非ご参加下さい。

。期日 11月12日(土)～14日(月)

。定員 25名(申込先着順、定員になり次第締切り)

。参加費 約3万3千円(バス代、宿泊費、交通傷害保険その他)

。申込 7月15日(金)までにワカバ会事務所にて電話で。

。新神戸より全行程バスを使用します。一乗寺、浄土寺、吉備神社、国分寺、鶴林寺等、十数寺を見学。解散は京都

駅14日(月)17時頃の予定。

。要項は参加者全員に配布いたします。

事務所だより

◇会費納入のお願い◇

本年度も未納会費、維持会費の納入にご協力下さいましてありがとうございます。

六十年に従来の終身会費を

全会員のの方に完納して頂きそ

の後、維持会費一口二千元を

納めて頂くように会費制度が

改正されました。終身会費三

千六百円がもうけられた四十

年度より会費の払込みがなか

った方は三千六百円、何年分

か払込まれた方はその金額を

差引いて未納会費としてお知

らせしています。未納会費の

ある方は、出来るだけ早くご

入金くださるようお願いいた

します。

ワカバ会は会費で運営され

ています。維持会費の払込み

にご協力下さい。また、維持

会費を本年度中に納入の方に

は、「ワカバ会創立60周年記

念誌」を贈呈致します。払込

みは、未納会費、維持会費と

も、同封の振替用紙をご利用

下さい。(記念総会パーティー

券用振込にはつかえません。)

◇お願い◇

◎住所変更届出の件について

氏名・住所・電話番号が変わった時ワカバ会事務所に必ず連絡して下さい。

◎労働力提供について

ワカバ会の仕事(会報発送・名簿整理・「わかば」編集など)を一緒にやって下さる方、お電話を下さい。

・五月二十二日(日)ワカバ会創立60周年記念総会当日に裏方をし

て下さる方募集しています。写真印刷・運搬・集会など多職種にわ

たり、大勢必要です。若い人ふ

って応募して下さい。

◎音信について

・クラス会、同期会、クラブのOB会のお便り、同窓生の活躍などご存じのことはワカバ会へお知らせ下さい。「わかば」でも呼びかけ、報告します。

◇お願い◇

ワカバ会事務所は母校六階にあります。

竹内和世さん(5-4)は、月曜日から金曜日まで毎日、

斎藤節子さん(7-3)は、月曜日と水曜日、

他に中島紀子さん(11-7)

佐藤芳子さん(19-2)が事務を執っています。

また、松野靖子さん(8-7)

はPTAの事務を担当、石野恵美さん(33-5)は英語科、戸田雅子さん(19-1)は国語科、羽野みき子さん(21-2)は家庭科、鈴木美智子さん(9-3)は数学科、大山瑞代さん(14-4)は英語科の教員、御子柴大介さん(26-4)は社会科の講師として母校に勤務しています。

お近くにおいでの際はぜひ立ち寄り下さい。

◇学校から◇

大学三年生で昭和六十五年度の教育実習を希望される方、なるべく早く、教科、教務の先生が担任だった先生に連絡しましょう。

編集後記

今年も「わかば」編集のためにワカバ会事務所に幾度か足を運んだ。その度に、六十年記念総会にむけて、各種のお仕事を下さる人々とお目にかかった。時には所狭しと、三種の別の仕事と同時に進行させながら、こちらの用件にも耳を借して下さった事務所の皆様のスーパードーマンぶりに感心しつつ、我々も追い込みの校正に精を出した。協力頂いた方々に感謝いたします。今回紙面の都合で山荘利用案内を「山荘トピックス」として別刷にしました。

山荘トピックス

夏は軽井沢で！

—ワカバ会軽井沢山荘利用案内—

◆開荘期間 7月15日(金)～9月30日(金)

◆利用料金(1泊2食付)

大人……5000円

小人……4000円

幼児……2500円

8月1日(月)～8月31日(水)特別料金期間

大人……5700円

☆貸切料金制度あり、(原則として土、日は不可)

内々で気楽にお楽しみになりたい方。

特別料金期間…25名以上又は14万円以上

他期間………20名以上又は10万円以上。

◆利用時間

チェックイン PM3:00

チェックアウト AM10:00

門限 PM11:00

申込方法

ワカバ会事務所 03-451-0227へ

電話して下さい。

5月2日(月)から

AM10:30PM4:00 土、日、祝祭日

は休み。個人利用希望者、各種企画、参加者とも上の方法でお願いします。

なお10名以上の申込は常時受付

第五回

親睦ゴルフコンペ

恒例のワカバ会ゴルフコンペに是非一度参加なさって楽しさを味わって下さい。きっと常連となられる事受け合います。腕に自信の有無にかかわらず奮って参加を歓迎いたします。

日 時 7月23日(土)～24日(日)

場 所 軽井沢72ゴルフ・東コース

集 合 AM9:10 東コース

クラブハウスフロント前

スタート AM9:30(雨天決行)

プレー方式 ワンラウンドキャロ

ウエイ方式

定 員 6組24名(受付順)

参加費 35,000円(申込金5,000円)

第7回

野鳥と野草の会

「野鳥と野草の会」は、過去6年間、山荘の開募イベントとして定着いたしました。本年は紅葉と野の花を愛でる集いを企画いたしました。秋なので、野鳥の観察は出来ませんが、夏の喧騒の去った軽井沢の山荘周辺の静かな自然をおたのしみ下さい。東京よりマイクロバスでご案内いたします。個人で、グループで、多数ご参加下さい。

◦日 時 9月26日(月)～27日(火)

◦定 員 25名(定員になり次第締切り)

◦参加費 17000円(申込金5000円)

◦申 込 7月15日(金)まで

◦要項は参加者全員に配布いたします。

第3回山荘セミナー

加藤恭二子先生を囲むつどい

去年好評だった、加藤先生を囲む集いを、今年も計画しています。先生は昭和37年から53年まで三田高校の音楽の先生として指導にあたられ、生徒の人望を集め、現在も声楽家として精力的にご活躍なっております。

当日は先生のお歌を聴いたり、参加者の皆様にもご指導いただき皆でハーモニーを楽しんだり、内容も一段と充実したものと考えております。お誘い合せのうえご参加下さい。

日 時 7月中旬(総会の日に発表)

定 員 25人(定員になり次第締切り)

参加費 6000円(申込金5000円)

一日ヨガ教室

一日ヨガ教室に参加しませんか。此の夏、軽井沢山荘で健康維持の為に必要最低のヨガの基本を、元宝塚スター汐風享子(みちみ改め)さんが指導します。

デスクワークの方 運動不足の主婦の方等、沢山の申し込みをお待ちします。

日 時 7月24日(日)～25日(月)

定 員 25名(定員になり次第締切り)

参加費 6000円(申込金5000円)